

### ■開催概要

- シリーズ : 2023 鈴鹿クラブマンレースRound3  
2023 全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権 第7戦/第8戦/第9戦  
2023 Porsche Carrera Cup Asia Round 5&6
- 主催 : 鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)、ホンダモビリティランド株式会社  
京都レーシングハイブリッドクラブ (KRHC)
- 併催レース : 2023 サーキットトライアルRound2…主催：淀レーシングクラブ
- 協力 : AASC、ARCN、ARC、OCCK、チーム淀
- 競技 : JAF公認国際競技・国内競技・準国内競技
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.807km)
- 開催レース : 総参加台数.....91台  
FIT 1.5.....11台  
MEC120.....47台  
2023 PCCA Round 5&6 .....21台  
SFL 第7戦/第8戦/第9戦.....12台  
2023 サーキットトライアルRound2 ..14台
- 開催日 : 2023年7月1日(土)・2日(日)
- 天候・路面 : 1日(土)／曇後雨・ドライ～ウェット、2日(日)／晴・ドライ

### ■次回レース開催概要

- シリーズ名称 : 2023鈴鹿クラブマンレースRound 4
- 開催日 : 2023年10月7日(土)・8日(日)
- 主催 : ARCN
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.807km)
- 開催クラス : FIT、FFチャレンジ、VITA、v.Granz、フォーミュラEnjoy



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。  
[https://www.suzukacircuit.jp/result\\_s/2023/clubman/](https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2023/clubman/)



合計47台が集結した耐久レース、MEC120が初開催。V.Granzクラス、VITA-01はAma-Amaクラス、Pro-Amaクラスに分けられた

## モータースポーツの裾野を広げる、 120分の耐久レースシリーズが初お披露目

鈴鹿クラブマンレース第3戦が7月1日(土)、2日(日)の両日、鈴鹿サーキットフルコースにて開催されました。

併催レースとして行われたのが「2023 Porsche Carrera Cup Asia Round 5&6」、そして「全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権 第7戦/第8戦/第9戦」でした。Porsche Carrera Cup Asia RoundはマレーシアでのRound 1&2を皮切りに、韓国でのRound 3&4を経て鈴鹿サーキットへとやってきました。ポルシェカレラを操る21人のドライバーがエントリーして、7月1日(土)にRound5、2日(日)にRound6を実施。鈴鹿での2戦ともにFlorian LATORRE選手が勝利を収めることになりました。

トップドライバーへの登竜門として、定着したスーパーフォーミュラ・ライツ選手権も併催レースとして開催。不安定な天候となった1日(土)に第7戦、打って変わって猛暑となった2日(日)に第8戦/第9戦が行われ、フォーミュラカーを駆るドライバーたちによるバトルが繰り広げられました。

そして、何とんでも大きな見どころとなったのがv.Granz、VITA-01が混走して120分を戦う新たな耐久シリーズ「MEC 120 Minutes Endurance Challenge」の開催です。新たな試みとしてVITAクラスに「Pro-Ama(プロ×アマ)」クラスが設けられました。レースビギナーがプロドライバーと組むことで、ドライビングスキルだけでなく、マナーやスポーツマンシップを学ぶ機会にしてほしいという狙いから。MECシリーズは鈴鹿サーキットで初お披露目され、2023年度に残り3戦を行いシリーズチャンピオンの座を争います。

また、「気軽にサーキットを楽しめる!」のも、鈴鹿クラブマンレースの魅力。2日(日)に第1ヒート、第2ヒートの各20分、計40分間で行われたのがサーキットトライアルでした。13人の参加ドライバーは日ごろから慣れ親しんだナンバー付きの愛車を駆り、鈴鹿サーキットフルコースでのタイムアタックにチャレンジ。第1ヒートの3周目、寺本道雄選手が2分23秒544の好タイムを記録して優勝しました。

次回の鈴鹿クラブマンレース第4戦は10月7日(土)・8日(日)に開催予定。モータースポーツの楽しさ、喜びを鈴鹿サーキットフルコースから発信していきます



併催レースとして行われたスーパーフォーミュラ・ライツ選手権。第9戦(写真)は菅波冬悟がポールポジションからスタート



## ■FIT 1.5 Challenge Cup class

3月に行われた第1戦のウィナー、西尾和早がこの日もポールポジションからスタート。

西尾がホールショットを奪うと、2番グリッドの清水悠祐、3番グリッドの中西茂希が続くオーダー通りの展開になる。西尾、清水、中西、岸元優、山内拓磨といった上位陣に大きなバトルは見られず、やがて西尾は単独走行へ。村田竜介、山内、大谷浩、村田尚らの5番手争いが激しくなる。レースはそのまま西尾が勝利して2連勝。2位は清水、3位は中西、4位は岸元。白熱した5位争いは山内が制することになった。



1日(土)に行われた公式予選は曇り空の下、路面はドライで実施。2分34秒371をマークした西尾和早が決勝ポールポジションを獲得した



西尾和早が見事なポールtoウィン。2位は清水悠祐、3位は中西茂希となり上位3台はグリッド順通りの結果になった



## ■MEC 120 Minutes Endurance Challenge (MEC120)【その1】

47台がエントリーする大混戦のなか、予選で2分13秒600をマークしたOOKA／三宅淳詞組がポールポジションからスタート。だが、オープニングラップでトップに立ったのはCozzolino Carmine／岸本尚将組、さらに松本吉章／中村賢明組と続く。3台のマシンがコースアウトを喫してしまい、3周目でセーフティカーがコースインする。なお、13番手を走るGAMISAN／HIROBON組がAma-Amaクラスのトップ、14番手の萬雲恒明／阪口良平組がPro-Amaクラスのトップをキープ。レースはその後、17周目で3度目のセーフティカーランとなる展開に。2回のピットインが義務付けられた耐久レースだけに、セーフティカーがコースインするタイミングも勝敗の分かれ目となった。



120分耐久レースは終わってみればOOKA／三宅淳詞組がポールtoウィン。写真はスタートドライバーを務めたOOKA選手



Ama-Amaクラスで優勝した大八木龍一郎／徳升広平組。2位はGAMISAN／HIROBON組、3位はTOMISAN／増本千春組だった



## ■MEC 120 Minutes Endurance Challenge (MEC120) 【その2】

レースが60分を過ぎる頃、周回は27周目へ差し掛かる。ピットインを各チームが消化していくなか、ポールシッターだったOOKA／三宅淳詞組がトップへ振り返る。レース終盤、OOKA／三宅淳詞組がピットインすると、直後に4回目のセーフティカーがコースイン。展開も味方に付けたOOKA／三宅淳詞組はトップをキープして、120分で43周を走り切り、最終ドライバーのOOKA選手がトップチェッカーを受けた。Ama-Amaクラスの優勝は42周を走った大八木龍一郎／徳升広平組、Pro-Amaクラスは41周を走った富田栄造／富田竜一郎組となった。



Pro-Amaクラスの優勝は親子ペアで話題を集めた富田栄造／富田竜一郎組。2位は中里紀夫／服部尚貴組、3位は中島佑弥／三浦愛／長島正明組



総合優勝となるv.GranzクラスのウィナーはOOKA／三宅淳詞組。2位は松本吉章／中村賢明組、3位はCozzolino Carmine／岸本尚将組だった

## ■2023 Porsche Carrera Cup Asia Round 5&6

1日(土)に行われた第5戦、天候が不安定なこともありスリックタイヤとレインタイヤが混在してレーススタート。ポールポジションのFlorian LATORREがホールショットを獲得。Martin RAGGINGEがトップチェッカーを受けるも、レース後の30秒加算ペナルティを受ける結果に。これにより2位チェッカーだったFlorian LATORREがウィナーになった。

2日(日)の第6戦は前日を再現するようにFlorian LATORREがポールポジションから好スタート。2番手を走るLUO Kailuoを引き離す安定した走りでFlorian LATORREが勝利。



1日(土)に行われたRound5のレース前グリッドの様子。途中、雨が強くなる難しい天候だったがFlorian LATORREがポールtoウィンを決めた



Round5では、レース後にペナルティを科されたMartin RAGGINGE(左から3番目)。2位だったFlorian LATORRE(左から2番目)がウィナーになった



## ■2023 Porsche Carrera Cup Asia Round 5&6



Round6の表彰式。ポールtoウインのFlorian LATORREが危なげないレース展開を披露。2位はLUO Kailuo、3位はMartin RAGGINGEとなった

## ■全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権 第7戦/第8戦/第9戦

第7戦は徐々に雨脚が強くなるなかレーススタート。タイヤ選択が難しいなか、終盤、ウェットタイヤを履いた菅波冬悟がデビッド・ビダーレスをパスしてスーパーフォーミュラ・ライツでの初優勝となった。第8戦はポールポジションスタートの木村偉織が序盤から逃げ始め、4周目で早くも2番手の野中誠太に約3秒のタイムギャップを築く。レースはそのまま木村が勝利。2位は野中を大逆転でオーバーテイクした平良響だった。第9戦は2番グリッドスタートの平良響が好スタートを決め、レースを優位に展開していく。平良はスタートでの優位をキープし続けて勝利。今シーズン3勝目を飾った。



第8戦でポールtoウインを決めた木村偉織。一度もトップを譲らない完勝と呼べる内容だった



第7戦の表彰式。代役参戦だった菅波冬悟は、雨を味方につけて勝利を収めた



## ■全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権 第7戦/第8戦/第9戦



第8戦は優勝が木村偉織、2位は平良響、3位は野中誠太という結果に。Master classの畑享志(右)もトロフィーを掲げた



第9戦で優勝を果たしたのはスタートダッシュに成功した平良響。2位は菅波冬悟、3位は野中誠太となった

## Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った  
ドライバーに一问一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一问一答  
「Voice of Pick up Driver&Team」。

MEC 120 Minutes Endurance Challenge  
栄えあるシリーズ初代ウィナーチーム！

OOKA／三宅淳詞組 (G-TECH)



OOKA (写真左) / 三宅淳詞組

### 【コメント;三宅淳詞選手】

**Q: 1日(土)の予選で見事にポールポジションを獲得しました。**

「台数が多く、クリアなコースでアタックできるチャンスが少なかったと思っていました。赤旗中断を経て、自分が先頭のタイミングで勝負をできたのがポールポジション獲得につながりました」

**Q: 見事なポールtoウィンとなりました。**

「良い意味で淡々と走り切ることが目標でした。それでも、楽しみながら走ろうと思っていたことが振り返れば良かったですね。大きなトラブルもなく、チームの皆さんに感謝しています」

### 【コメント;OOKA選手】

**Q: 最初と最後のドライバーという大役でしたね。**

「レース経験は浅いですが、自分は三宅さんにバトンを渡すだけなので、自分の役目をしようと走りました」

**Q: 優勝した実感は？**

「三宅さんと組ませてもらえて、ポールポジションからの眺め、トップチェッカーを受けるといった体験をさせてもらえました」